

2009年

5月14日（木曜日） - 厳しい中で深まる真の納税意識 「峰山納税協会創立50周年記念式典」 -

本日、峰山納税協会の創立50周年記念式典が開催されました。峰山納税協会の皆さんには、昭和34年にご設立以来、納税相談や研修会、講演会など税知識の普及や納税道義の高揚に尽くしていただき、経済社会の根幹に関わる極めて公益性の高い事業にご献身いただき、歴代の会長、役員、会員の皆さんに深く敬意と感謝を申し上げます。

現下は大変深刻な経済状況の中、本市としても経済・雇用対策に全力を挙げていますが、歳入において例えば法人市民税は対前年比約36%の減収を見込まざるを得ない状況であり、厳しい財政運営に腐心をしています。しかしながら、このような状況の中、住民の皆さんには変わらず納税の励行に努めていただいているわけで、環境の厳しさ如何にかかわらず浸透している納税規範とそこに果たしてきた協会のご貢献の大いさに深く感じ入ります。それだけ尊い税収であるだけに効果的な執行に尽くしていかなければと思っています。

そんな中、行政としてもう一つ大切なことは、今後ともいわゆる納税モラルのハザードを来たさないよう必要な課税の徹底に腐心していくことであり、今般、京都府と府下25市町村による税務共同化が平成22年1月から開始されるなど、徴収の向上、滞納の解消に努力を進めます。

そして、何より大切なのは、厳しい状況の中だからこそ、納税の意味自体を今改めてお一人お一人の中で問い直してみること、さすれば、真の税知識を深めることに自ずとつながってくる、それにより納税道義の向上も自然、根付いてくるのではないかと感じています。その意味で、この全国不況の最中に50周年の節目を迎えられましたことは、今後の50年を展望される上で極めて意義深いですね。